

中央教育審議会産業教育専門部会の動向

北海道札幌工業高等学校長

佐藤 俊

(中央教育審議会初等中等教育分科会

教育課程部会 産業教育専門部会委員)

平成19年1月24日に教育再生会議が第一次報告を発表し、教育再生のための当面の取組として7つの提言と4つの緊急対応を示した。

このような中で、中央教育審議会の動向についての報道は少ないが、本年1月末をもって第3期中央教育審議会が終了し、2月から第4期中央教育審議会に引き継がれている。

この間の経緯について、産業教育専門部会を中心に若干触れておきたい。

旧教育課程審議会の役目は、現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会が担っており、旧理科教育及び産業教育審議会は教育課程部会の下に理科教育専門部会、産業教育専門部会として存在している。

教育課程部会においては、平成18年1月に文部科学省として取りまとめた「教育改革の重点行動計画」において、学習指導要領の改訂を平成18年度から平成19年度にかけて行うこととしていたことから、早ければ平成18年度内に改訂を行うことも視野に検討を進め、平成18年2月13日には審議経過報告を発表した。

平成18年4月には教育課程部会のもとに小学校部会、中学校部会、高等学校部会を設けるとともに産業教育専門部会を新たに設置した。

その後、高等学校部会は4回(4～6月)、産業教育専門部会は7回(4～8月)の審議を行い、教育課程部会に検討素案を示した。

それらを受けて、教育課程部会では7月から9月に集中的に各専門部会の検討素案について審議した。

その後、この審議結果をうけて10月下旬以降に高等学校部会、産業教育専門部会の開催を予定したが、ご承知のとおり、教育基本法の国会審議などもあり、10月以降年末に至るまで教育課程部会も含め開催し難い状況が続いていた。また、その間、高校の必修教科目の未履修、いじめといった問題も発生した。

このような状況から、国会審議におけるご論議やこれらの問題も視野に入れてさらに検討すべき課題も多くなり、平成18年度中の学習指導要領の改訂は困難な状況になった。

他方、第3期中央教育審議会は平成19年1月末で任期が終了することから、それまでに、教育課程部会としては、これまでの審議の内容を整理して第4期中央教育審議会に引き継ぐ必要があった。

そのため、教育課程部会は12月末から1月末までに5回の審議を集中して行い「第3期教育課程部会の審議の状況について」をまとめ第4期中央教育審議会に引き継いだ。中央教育審議会教育課程部会の審議経過は以上のような状況である。

このことをふまえて、ここでは産業教育専門部会が4月から8月の間に7回の審議を経て、

第32回教育課程部会に提出した検討素案を紹介する。

検討素案の内容は、①専門高校における職業教育、②専門高校における職業教育の現状と課題、③各教科横断的な視点、④各教科別の視点の4部構成となっている。各教科別の箇所は、工業に関する部分のみ記述する。

専門高校における職業教育

産業構造の変化、産業社会の高度化、就業構造の変化等我が国の産業が大きく変貌する中、産業社会や企業が求める専門高校の役割や生徒への期待、専門校に学ぶ生徒の意識が変化している。

このような状況に対応し、専門高校における職業教育をより充実させるため、次のような観点から、見直しを行ってはどうか。

例えば、

- ・「将来のスペシャリストを育成」するため、①専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得に加え、ものづくりや生産などの体験的学習を通じた②実践力を育成するとともに、資格取得や競技会への挑戦等を通して③課題を探求し、解決する力、④自ら考え行動する力、⑤コミュニケーション能力、協調性、⑥学ぶ意欲、働く意欲、⑦チャレンジ精神などの積極性・創造性等を育成する。
- ・「将来の地域産業を担う人材を育成」するため、地域産業と連携した実践教育・就業体験、地域との交流等を充実させ、実践力の育成等を図るとともに、⑧地域産業・地域社会への理解を深めさせる。
- ・「人間性豊かな職業人を育成」するため、人と接し、自然やものに関わる職業教育の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに、⑨生命・自然・ものを大切にすることを育む。また、職業人としての必要な遵法精神などの⑩規範意識を育成する。

- ・専門高校に学ぶ生徒の起業意欲等チャレンジ精神が高まる中、新たな産業分野や先端技術への取組等を通して、課題を探求し、解決する力等を育成するとともに、資格取得や競技会への挑戦等を通して、自己実現意識を醸成する。
- ・専門高校に学ぶ生徒の進路意識が多様化する中、生徒一人一人の進路希望に応じた教育が可能となるよう配慮するとともに、実践的職業教育、就業体験等を通して、勤労観・職業観を高め、主体的に職業を選択する力や人生を設計する力を身に付けさせる。

専門高校における職業教育の現状と課題、改善の方向性（検討素案）

【現状と課題】

1. 現状

専門高校においては、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎・基本に重点を置いた職業教育を行っている。

専門高校における職業教育に関する教科は農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の8つの専門領域で構成させている。

工業科のねらいは、次のようになっている。

工業の各分野（機械、電子機械、自動車、電気、電子、情報技術、建築、設備工業、土木、化学工業、材料、繊維、インテリア、デザイン等）に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、工業の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2. 課題

経済のグローバル化や国際競争の激化、規制緩和等に伴う産業構造の変化等によって、我が国の産業社会や企業が専門高校に求める役割や生徒への期待は変化しており、これらの変化に

適切に対応した職業教育の在り方が課題となっている。

(1) 専門高校の役割

① 将来のスペシャリストの育成

産業構造の変化等に伴い、専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得に加え、実践力、課題解決力等の育成への期待が高まっている。

② 将来の地域産業を担う人材の育成

若年就労者の減少、若者のものづくり離れ等が進む中、ものづくりを中心とした我が国の産業社会にとって、特に地域産業の人的基盤を支える専門高校への期待が高まっている。

③ 人間性豊かな職業人の育成

社会の少子化、高齢化、環境問題の深刻化に加え、若者の生活感の希薄化が指摘される中、人や自然やものと深くかかわる職業教育の特長を生かした、生命・自然・ものを大切にする心の教育への期待が高まっている。

(2) 専門高校の生徒への期待

将来のスペシャリストとして、将来の地域産業を担う人材として、更に、人間性豊かな職業人として、次のような能力・資質の習得が求められている。

- ① 専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術
- ② 実践力
- ③ 課題を探求し解決する力
- ④ 自ら考え行動する力
- ⑤ コミュニケーション能力、協調性
- ⑥ 学ぶ意欲、働く意欲
- ⑦ チャレンジ精神などの積極性・創造性
- ⑧ 地域産業・地域社会への理解
- ⑨ 生命・自然・ものを大切にする心
- ⑩ 規範意識

経済のグローバル化や国際競争の激化、規制

緩和等に伴う産業構造の変化、技術革新・国際化・情報化等に伴う産業社会の高度化、就業形態の多様化などにみられる就業構造の変化等によって、専門高校に学ぶ生徒の意識は次のように変化しており、これらの変化への適切な対応も新たな課題となっている。

(1) 起業意欲等チャレンジ精神の高まり

産業構造の変化等に伴い、起業意欲や新たな産業分野・形態・領域へ挑戦する意欲が高まっている。

(2) 進路意識の多様化

産業社会の高度化、就業構造の変化等に伴い、専門分野に関する知識・技術等を生かした就職のほか、専門分野をさらに深めるための大学等への進学、専門分野とは異なる分野への転進等、進路意識や進路の実態が多様化している。

【改善の方向性】

産業社会の変化に対応した専門高校における職業教育の充実のため、各教科横断的な視点及び各教科別の視点、それぞれの視点から学習指導要領の見直しを検討する。

このほか、職業教育の充実のため、現在、専門高校において行われている活性化のための様々な取組を、更に改善充実し、教育活動の中に位置付けていくことも重要と考えられる。

－取組事例－

- ・ 目指せスペシャリスト(スーパー専門高校) 先端的な技術開発等専門高校における特色ある取組
- ・ 日本版デュアルシステム 学校での教育と企業での実習を組み合わせた新たな教育システム
- ・ みんなの専門高校プロジェクト 専門高校生の指導・支援による小・中学生のものづくり等体験活動
- ・ 産業教育フェア

産業界、中学生などの専門高校に対する理解を深めるための学習成果の発表等

さらに、中学校段階における進路指導やキャリア教育の充実、専門高校生の習得した専門分野に関する知識・技術等に対する産業界や大学等の積極的評価なども、専門高校における職業教育の充実のための重要な視点と考えられる。

1. 各教科横断的な視点

【「将来のスペシャリストの育成」のため】

(1) 将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本を重視し、座学と実験・実習により専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の定着を図るとともに、ものづくりや生産などの体験的学習を通して実践力を育成する。

(2) 資格取得や有用な各種検定、競技会への挑戦等、目標を持った意欲的な学習を通して、専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の定着、実践力の深化を図るとともに、課題を探求し解決する力、自ら考え行動する力、コミュニケーション能力、協調性、学ぶ意欲、働く意欲、チャレンジ精神などの積極性・創造性を育成する。

【「将来の地域産業を担う人材の育成」のため】

(1) 地域産業と連携した実践教育、就業体験等を充実させ、実践力、コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、地域産業への理解を深めさせる。

(2) 地域との交流を通し、地域の特色や環境を生かしたものづくり、生産等を学ばせ、地域社会への理解を深めさせる。

【「人間性豊かな職業人の育成」のため】

(1) 人と接し、自然やものとかかわり、命を守り育てる職業教育の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに、生命・自然・ものを大切にすることを育む。

(2) 座学や実践的職業教育を通して、職業人

として必要な遵法精神など規範意識を育成する。

【専門高校に学ぶ生徒の意識の変化を踏まえ】
《起業意欲等チャレンジ精神の高まり》

(1) 新たな産業分野や先端的技術への取組等を通して、課題を探求し解決する力、チャレンジ精神等を育成する。

(2) 資格取得や有用な各種検定、競技会への挑戦等、目標を持った意欲的な学習を通して、達成する喜びや充実感など自己実現意識を醸成する。

《進路意識の多様化》

(1) 弾力的な教育課程の編成等、生徒一人一人の進路希望に応じた教育が可能となるよう配慮する。

(2) 実践的職業教育、就業体験等を通して、生徒一人一人の勤労観・職業観を高め、主体的に職業を選択する力や人生を設計する力を身に付けさせる。

2. 各教科別の視点

工業

国際分業の進展と国際競争の激化が進む中、工業技術の高度化、環境・エネルギー制約の深刻化、産業用マイクロコンピュータによる情報化とネットワーク化の進展、技術者倫理の要請の高まり等に対応し、新たな時代のものづくり産業を支える人材を育成する観点から、科目の新設、関連科目の整理統合、内容の見直しについて検討。

以上が現時点での状況です。今回は中教審の産業教育専門委員として貴重な経験をさせていただきましたが、後半は十分な力を発揮することができませんでした。今後は、新専門委員での審議が進むこととなりますが、工業教育活性化につながる答申が示されることを期待しております。